

報告

糖尿病と合併症～腎症を中心に～

旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野

教授 羽田 勝計

第94回北海道医学大会総会

常任理事・学術部長 櫻井 晃洋

今年度は、北海道大学笠原正典医学研究科長を会頭とし、39の分科会が参加して第94回北海道医学大会が開催された。

10月4日（土）の総会では、北海道医師会賞ならびに北海道知事賞贈呈式、各科トピックス、特別講演などがあった。

各科トピックス、特別講演の講師の諸先生にお願いし、寄稿していただいた要旨を2回にわたって紹介する。

◆各科トピックス

1. 「糖尿病と合併症～腎症を中心に～」

旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野
教授 羽田 勝計

座長 札幌医科大学医学部
消化器・免疫・リウマチ内科学講座
教授 篠村 恭久

2. 「顔面変形の精巧な復元を目指した形成外科手術最前線」

札幌医科大学医学部形成外科学
教授 四ッ柳高敏
座長 北海道大学大学院医学研究科形成外科学
教授 山本 有平

3. 「白血病・リンパ腫の治療：過去から未来へ」

北海道大学大学院医学研究科血液内科学
教授 豊嶋 崇徳

座長 旭川医科大学
消化器・血液腫瘍制御内科学
教授 高後 裕

4. 「透析療法の発展と今日」

札幌北楡病院副院長・人工臓器治療センター長
久木田和丘
座長 北海道医師会 常任理事 櫻井 晃洋

◆特別講演（2月に掲載）

「個別化（テーラーメイド）医療への期待」

九州大学高等研究院特別主幹
教授 笹月 健彦
座長 第94回北海道医学大会会頭 笠原 正典



羽田教授

はじめに

糖尿病症例数は全世界で増加し続けている。我が国も例外ではなく、2012年の調査で、「糖尿病が強く疑われる人」が950万人に達したことが報告された。現在、糖尿病の治療目標は、「健康な人と変わらない日常生活の質（QOL）の維持、健康な人と変わらない寿命の確保」であり、このためには「糖尿病細小血管合併症（網膜症、腎症、神経障害）および動脈硬化性疾患（虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症）の発症、進展の阻止」が重要とされている。この目標達成に向けて「血糖、体重、血圧、血清脂質の良好なコントロール状態の維持」を行うことが糖尿病の治療である。すなわち、糖尿病は「合併症の病気」と言っても過言ではない。本稿では、糖尿病合併症の現状・評価・治療に関して、特に内科医にとって重要な腎症を中心に概説した。

1. 糖尿病性血管障害とその現状

日本糖尿病学会では、「糖尿病の死因に関する委員会」を設け、糖尿病症例の死因調査を10年ごとに行ってきた。2001年～2010年の調査は現在行われているが、1991年～2000年の調査では、第1位が悪性腫瘍、第2位が血管障害、第3位が感染症となっている¹⁾。悪性腫瘍の中で第1位は肝臓癌であったが、日本糖尿病学会と日本癌学会との合同委員会の調査でも、膵臓癌・肝臓癌・大腸癌は非糖尿病患者に比べて頻度が有意に高く、糖尿病との関連性が示唆されている²⁾。血管障害の中では、虚血性心疾患と脳血管障害がほぼ同率であり、糖尿病性腎症が第3位に入っている。すなわち、糖尿病性血管障害が死因の上位を占めて